

令和8年度夏のキャンパスビジット実施報告書

文責 実行委員長 医学科4年 入江風丞

1. はじめに

令和8年6月14日(日)、令和8年度夏のキャンパスビジットを盛大に開催いたしました。当初定員60名で募集を開始したところ、想定を大幅に上回る応募が殺到し、最終的に75名の学生に参加いただきました。高校1年生から予備校生まで、そして県内外各地からはるばるお越しいただきました。

本イベント「キャンパスビジット」は、長崎大学医学部医学科への進学を志望していたり興味を持っていたりする高校生・予備校生を対象とした特別なイベントです。有志学生による実行委員会が中心となって企画・運営を行い、学生の視点から本学医学科の実態と魅力をより身近に伝えることを目的としており、毎年夏に大学が開催するオープンキャンパスとは一線を画しています。今回も、講話や体験授業、実習機器の体験などを通して本学医学部を目指す参加者のモチベーションアップにつながるような準備を進めてきました。



2. 当日の様子

開会に際し、本キャンパスビジット実行委員会の顧問をしていただいている泉川先生よりご挨拶を頂戴しました。

1時間目として、大坪竜太先生(長崎大学病院地域医療支援センター教授)をお迎えし、ご講演いただきました。

2時間目として、学生企画を行いました。前半は2名の学生に講話をしてもらいました。後半は、本学医学科の授業でもよく取り入れられているTBL授業を実践しました。

昼休憩では、参加者と実行委員が楽しく会話を交えながら昼食をとりました。
午後は、シミュレーション機器を用いて実習体験を行いました。4ブースに分かれ、計8つのシミュレーターを体験してもらいました。
閉会後は放課後座談会を行いました。勉強や受験の相談を中心に、多くの方が話をしている場面が見られました。



泉川先生のご挨拶

3. 各プログラムについて

(1) 先生講話

長崎大学病院地域医療支援センター教授の大坪竜太先生をお招きし、「医師という選択肢～あなたの可能性を広げる 30分～」という題目でお話いただきました。医師の様々なキャリアの可能性や、長崎の特性から見た地域医療の在り方などについて講演していただきました。地域医療に興味を持つ参加者にとって特に刺激的な内容でした。講演後には熱心な参加者による質問が多数寄せられました。目的意識をもって医師になるという先生のお言葉に強く心を動かされた参加者の声がアンケートで寄せられました。



大坪先生のご講演

(2) 学生講話

1年の松尾、3年の牧山に講話をしてもらいました。松尾からは自身の受験勉強を中心にお話をしてくれました。多くのアドバイスを熱心にメモにする参加者が多くいました。牧山からは医学生の勉強や部活などの生活について紹介してくれました。実際の学生生活をたくさん話してもらい、参加者にとって、入学後のイメージができたとともに受験のモチベーションアップにつながったと思います。



松尾さんの講演

(3) TBL

TBL(Team-Based Learning)は、医学部の授業で多く取り入れられている少人数でのグループ課題解決学習です。今回は、一人暮らしの高齢者の事例をもとに、本人が目標とする暮らしをどのように支えるかというテーマで行いました。事例に書かれた様々な情報から、その方の強みや弱みを考えてチームで整理していくとともに、その方が希望する生活の実現のためにはどのような支援サービスや職種が必要なのか話し合いを行いました。参加者は初めてのTBLで、お互い初対面にも関わらず、どの班も熱心で活発な話し合いが行われ、様々な視点から面白い意見を聞くことができました。最後には班同士で発表し合いました。この学習を通して、多職種や社会資源を活用しながら本人の希望を実現する視点について学んで頂くことができたと思います。



TBLの様子

(4) 実習

毎回一番人気である実習企画を今回も実施しました。心音・心電図、エコー、血圧測定、呼吸音、腹腔鏡、結紮、胸骨圧迫、気管挿管の計8種類のシミュレーターを用意しました。難しい内容や操作もありましたが、参加者が取り組みやすく楽しんでもらえるように、実行委員が事前に準備と練習を重ね、企画内容にも工夫を施しました。また、時間を十分に確保し一人一人がしっかりと体験できるように努めました。シミュレーターに触れられる機会は滅多にないため、多くの参加者が熱心に体験に取り組んでいました。私たち実行委員にとっても大変貴重な体験でした。シミュレーター体験を通して皆さんが大学生や他校の生徒と楽しく交流できており、最後まで大盛況でした。そして参加者の皆様のアンケート内で、実習がとても良かった、楽しかったという声を非常に多くいただきました。気管挿管が今回一番人気でした。この実習体験は本キャンパスビジットの大きな特徴の一つでもあるので、今後もより充実した企画となるよう試行錯誤を重ねていきたいです。



腹腔鏡の様子



気管挿管の様子

(5) 放課後座談会

自由参加として開催しましたが、多くの方が閉会後も残り、勉強面での悩みや相談を中心にたくさん話してくれました。実行委員側も、最大限のアドバイスを情熱的に話してくれました。一時間以上話しているところもあり、志の高い方がたくさんいて大変うれしく感じました。

4. さいごに

過去の回で良かった点や改善点を踏まえて、企画の検討を重ねてきました。話を聞くだけでなく直接的な体験を増やすこと、各プログラム(特に実習)の時間を十分に確保することを課題としてきましたが、今回かなり改善できたように思います。そして計画・準備から本番当日も含めて、とても順調にスケジュールを進

めていくことができました。これらは、キャンパスビジット顧問である泉川先生、毎回実習に協力していただいている長崎大学病院シミュレーションセンターの中山副部門長、ご講演いただいた大坪先生、医学部総務課の藤岡さん、中尾さん、キャンパスビジットの取り組みにご理解いただき予算など多大なご支援・ご協力を頂いている大学関係者の皆様、共に企画運営に尽力してくれる実行委員の皆様など、多くの方々のご協力のおかげです。心より厚く感謝申し上げます。

一日を通して一番印象に残っているのは、参加者の皆さんが他校の学生と友達になり仲良くしている姿が多く見られたことです。大学生との交流だけでなく、参加者同士の交流も非常に刺激的であることに今回気づくことができました。このキャンパスビジットで出会った他校の仲間と、数年後に長崎大学医学部医学科に合格し再会できることを祈っております。またその際には、一緒にキャンパスビジットを作り上げる私たちの仲間にもなってくれることを切に願っています。

最後に、このキャンパスビジットは今年で11年目を迎え、計17回開催されてきました。学生が主体となる本学キャンパスビジットは、他にはない素晴らしい取り組みです。この取り組みについてやこれまでの成果について、今年夏に開催される日本医学教育学会で発表することとなりました。キャンパスビジットの取り組みを広く知っていただくとともに、医学教育的な観点から多くの学びを吸収し、さらによりよいもの出来るよう努めてまいります。

皆様のお力添えがあり、無事に第17回キャンパスビジットを盛会のうちに終えることができました。次回以降もより良いものとなるよう改善を重ねてまいります。引き続き何卒よろしくお願いいたします。



参加者に大人気のマスコットキャラクター：いしやっちゃん